

韓統連大阪通信紙

自主

チャジュ

380号

2022年11月号

자주

発行 在日韓国民主統一連合  
(韓統連) 大阪本部

〒544-0034

大阪市生野区桃谷3-13-6

TEL06-6711-6377 FAX06-6711-6378

毎月1日発行 購読料 年間3000円

郵便振替 00940-7-314392

民族時報社 大阪支社

## 在日同胞招請行事「分断に立ち向かう人たち、在日同胞との同行」

2022年10月25日から28日にかけて、  
＜2022在日同胞招請行事「分断に立ち向かう人たち、在日同胞との同行」＞が開催された。主催は、モンダンヨンピル、民族問題研究所、民主社会のための弁護士集い(民弁)、地球村同胞連帯の4団体で、在日韓国良心囚同友会(同友会)からは李哲、康宗憲、李東石の3氏が、韓統連からは李鐵顧問、金昌五事務長、崔誠一副事務長、李俊一総務部長の4名が招待されて参加した。

### ●国家人権委員会委員長、 真実和解委員会委員長 との会談が実現

公式日程の最初の行事は、10月25日の午後5時から行われた国家人権委員会委員長との会談だ。裁判官として長く活動されたあと、在野の弁護士として民弁でも活動し、憲法裁判所の判事も歴任されたソン・ドゥファン委員長と1時間にわたって会談した。国家人権委員会が、昨年4月に韓統連の会員に対する旅券発給に際しての差別的対応を是正するよう勧告を出して以降、それまで3年、5年などの有効期間であったのが全員に10年有効期間の旅券が発給されるようになったことを金昌五事務長が一覧表をお渡しして報告したところ、その後どうなったのか心配していたとのことだ。また、反国家団体規定の撤回に向けて引き続き努力して下さるよう直接訴えることができた。

10月26日の午後1時から真実和解のための過去事件整理委員会のチョン・グンシク委員長との会談が行われた。韓統連からは金昌五事務長が旅券を悪用した韓統連会員に対する弾圧事例を報告しながら、政権交代のたびごとに弾圧が繰り返されないためには反国家団体規定の撤回が不可欠であることを訴えた。また、同友会からは李哲氏と康宗憲氏が、再審請求を躊躇(ちゅうちょ)し

ている多くの在日同胞元政治犯に対して真実和解委員会から直接再審請求を呼び掛けるよう努力してほしいと訴えた。

### ●民弁との懇談会、国会での討論会で

#### 在日同胞の人権問題を論議

10月26日の午後3時から行われた民弁懇談会「在日同胞との同行、私たちは共に何をすべきか」では、李俊一総務部長が旅券問題について報告し、10月27日の12時から国会議員会館で

行われた「在日同胞の人権の過去と現在、そして未来のための国会討論会」では、金昌五事務長が韓統連に対する工作事件について報告した。

公式行事の最終日である10月28日には貸し切りバスで江華島を訪問した。モンダンヨンピル代表である韓国ドラマ「冬のソナ

タ」で有名な俳優の権海孝(クォン・ヘヒョ)氏がドラマの撮影日程を変更して同行してくれた。江華島では外来侵略者たちとの激戦地となった現場で歴史的な戦いについて解説を受けるとともに、韓国を代表するテグム奏者によるミニコンサートが開催された。続いてモンダンヨンピルのメンバーが在日同胞に対する思いを込めた歌を披露してくれたが、涙ぐみながら歌うその姿に深い感銘を受けた。

### ●在日同胞に対する

#### 深い愛情に包まれた幸福な時間

仁川空港での出迎えに始まり、歓迎晩さん会、行事終了後の交流会、最終日のお別れ会まで、モンダンヨンピルの若いスタッフをはじめとした主催団体のメンバーの在日同胞に対する深い愛情に包まれた幸福な時間だった。国内同胞と在日同胞が深い絆で結ばれた意義深い行事だった。

(金五)



▲真実和解委員会チョン・グンシク委員長(前列右から二人目)との記念写真

## 光州民衆抗争の意義と教訓を共有する 韓統連セミナー「ウリ現代史」第3回

韓統連大阪本部主催による韓統連セミナー シリーズ「ウリ現代史」第3回「1980.5.18光州民衆抗争」が10月23日(日)、KCC会館(大阪市生野区)で開かれた。

セミナーでは金昌範(キム・チャンボム)韓統連大阪本部副代表委員が主催者挨拶を通じ「今回のテーマは光州民衆抗争です。共に闘った皆さんと当時の熱い想いを呼び起こしていきながら、今後の運動の理想・展望について語り合しましょう」と語った。

次に、金隆司(キム・ユンサ)大阪本部代表委員が報告を行った。金代表は光州民衆抗争に至る経過と背景を詳細に解説しながら、光州民衆抗争の意義について▲民主主義、民衆の生存権、人間の自由と尊厳のために生命をかけて闘った偉大な民衆抗争、▲米国の本質(独裁政権支援)を暴露し、80年代反外勢民族自主闘争を定立したなどを指摘した。



### ▲光州民衆抗争について報告する金隆司代表委員

そして「光州民衆抗争は、その後の運動の大きな影響を与え、1987年の6月民主抗争へとつながった」と述べるとともに、「光州民衆抗争の真相究明はいまだになされていない。徹底した真相究明が求められる」と主張した。

報告後は活発な質疑討論と韓統連大阪本部の今後の活動紹介が行われ、最後に金昌五(キム・チャンオ)大阪本部副代表委員が閉会挨拶を行い、終了した。

## 沖縄の50年の闘いを共有し、 平和憲法の固守を訴える 10・22反戦平和集会

ロシアによるウクライナ侵攻が継続する中、「とめよう！戦争への道 めざそう！アジアの平和 2022秋 関西のつどい」(主催：同実行委員会)が10月22日(日)、エルシアター(大阪市中心区)で開かれた。

集いでは、大阪平和人権センター理事長の米田彰男さんが主催者挨拶を行った後、講演①として衆議院議員の新垣邦男さんが「沖縄復帰50年—沖縄からの告発」をテーマに講演を行った。新垣さんは講演を通じ、沖縄復帰50年の歴史を振り返りながら「この間、米国海兵隊が9千人も削減されているのに辺野古新基地建設が進められている」と指摘、「国会は基地建設反対を訴える沖縄県民の声を聞いていない」と述べ、辺野古新基地建設反対を訴えた。



### ▲デモを通じ改憲反対を訴える

続いて、ウクライナ戦争の停戦を訴える連帯挨拶が行われた後、講演②として「大軍拡、改憲を撃つ」をテーマに、新潟国際情報大学教授の佐々木寛さんが講演を行った。佐々木さんは講演の中で「敵基地攻撃や核保有は現実的な安全保障とは言えない。日本の平和憲法を実現することこそ最大の安全保障になる」と訴えた。

講演終了後は、しないさせない戦争協力関西ネットワーク共同代表の中北龍太郎さんが閉会挨拶を行い、関西のつどいは終了した。

終了後はデモ行進を行い、道行く人々に「憲法改悪反対」「核のない世界をめざそう」などを訴えた。

## 【翻訳資料】

## 尹錫悦政府の対日屈辱外交を糾弾する！

## 韓日、韓米日軍事協力の中止を求める各界宣言

尹錫悦政府の対日屈辱外交を糾弾する！韓日、韓米日軍事協力を中止しろ！

尹錫悦政府の日帝過去史拙速解決と韓日、韓米日軍事協力の動きが度を越している。尹大統領は光復節演説、就任100日記者会見などを通じて日帝植民地統治期間中の問題に関連して「日本政府の主権侵害に憂慮することなく解決する。迅速に解決する」として、日本政府の立場を優先したかと思えば、外交部は日帝強制動員企業に対する損害賠償請求裁判が進行中の大法院に「両国間協議が進行中だ」として「慎重な判断を」と圧迫した。外交部はまた、国民的審判を受けて事実上廃棄された「2015年韓日合意」の合意精神に基づき韓日関係を解決すると宣言した。

国連総会期間中、岸田総理の宿所を訪問して両国の国旗もなく、略式で30分の会合を行い「韓日関係の早期解決」だけを公言して帰ってきたのは対日屈辱外交の極致だ。

今日、韓日関係が悪化したのは2018年10月30日、韓日修好条約当時の不完全な謝罪と賠償を補完し、日本企業の被害補償を決定した韓国大法院の歴史的な判決に不満を持った日本政府が、韓国に対する輸出規制を断行したためだった。

一方、尹錫悦政府は対日過去史問題の拙速な解決とともに韓日、韓米日軍事協力を拍車を加えている。韓米日軍事協力は過去の侵略戦争と植民地統治に対する歴史わい曲と軍事大国化に集中している日本が、本格的に朝鮮半島に再侵出できる道を開くことにほかならない。尹錫悦政府は9月30日、独島周辺公海上で日本の海上自衛隊と米空母艦隊と連携した韓米日海上演習を行い、10月6日、再び東海公海上で韓米日軍事演習を行った。11月6日には日本で開かれる海上自衛隊の観艦式にも韓国海軍が参加する予定だ。

当初「日本との軍事的戦闘訓練はない」としていた韓国海軍は最近、多国的訓練を装って日本との戦闘訓練を随時行っており、最近では中国を仮想敵とした米国・日本・フィリピンとの上陸作戦にまで参加し、中国を刺激している。

日本は最近、朝鮮半島有事を想定して敵基地攻撃能力確保を画策している。自衛隊の朝鮮半島再侵出と再武装に拍車をかける日本との軍事協力は、主権と平和を破壊する自害的措置にほかならない。強大国の角逐と世界的な戦争危機の中で、いつにも増して主権と平和を目指した均衡ある外交が切



▲記者会見で軍事演習中止などを訴える各界代表

実だ。独島などの領土主権を侵害し、過去の侵略と植民地支配に対する謝罪措置を拒否する日本との関係改善を乞い、日本自衛隊の軍事力強化を支える韓日・韓米日軍事協力を没頭する尹錫悦政府は、国を売り飛ばした李完用一派の犯罪をこの時代に繰り返すことと言っても決して過言ではない。

日本自衛隊の朝鮮半島再侵出と軍事大国化を下支えし、歴史歪曲推進を加速化する韓日軍事協力、韓米日同盟構築行動は直ちに撤回しなければならない。

我々の要求

- －日本政府は日帝強制動員及び日本軍性奴隷被害者に謝罪し、賠償せよ！
- －尹錫悦政府は強制動員大法院判決の履行妨害をやめて、拙速解決推進を止めろ！
- －尹錫悦政府は加害者に関係改善を乞う対日屈辱外交を中止せよ！
- －尹錫悦政府は自衛隊の朝鮮半島再侵出を後押しする韓日・韓米日軍事協力を中止せよ！

2022年10月25日

賛同団体：729・個人：420名

(自主時報：10月25日より)

## 【投稿】 世界を核戦争の恐怖から救い出すために

ウクライナ戦争が泥沼の様相を見せる中で、ロシアは核兵器の使用をくり返し示唆しており、核戦争の危機がかつてなく高まっている。

この現実的危機を回避するとともに、世界を核戦争の恐怖から救い出すために、核保有国に対して以下の原則を守ることを義務づけることを提案したい。

### 1) 核保有国は、いかなる場合も非保有国に対して核兵器を使用してはならない。

これによって、ウクライナはロシアの核攻撃の恐怖から解放される。さらに韓国や日本もアメリカの核の傘の下に入る必要がなくなる。世界中の核兵器を持たないすべての国家が核攻撃の恐怖から解放される。

### 2) 核保有国は通常兵力による攻撃に対しては核兵器を使用してはならない。

これによって核兵器の先制使用を相当程度防止することができる。また通常兵力の劣勢を核兵器の保有によって解消するために新たに核兵器を保有しようとする国も生まれにくくなる。

### 3) 核保有国は、他の核保有国から核攻撃を受けた場合にのみ、核兵器の使用が許される。

核兵器の使用を、実際に核攻撃を受けた場合のみに限定することで、核戦争勃発の可能性を大幅に低下させることができる。また核兵器は「使用できない兵器」の性格を強めるので核保有国は際限のない核軍拡競争から解放され、核軍縮に向けた環境が整うことになる。

果たして、現実政治においてこのようなルールを確立することは可能だろうか。私は可能だと思う。地球上最後の核保有国として、朝鮮政府が上記の原則を守ることを一方的に宣言するのだ。宣言の内容は以下の通りだ。

- 1) 朝鮮政府は、いかなる場合も非保有国に対して核兵器を使用しない。
- 2) 朝鮮政府は、通常兵力による攻撃に対しては核兵器を使用しない。
- 3) 朝鮮政府は、核攻撃を受けた場合にのみ核兵器を使用する。

4) 朝鮮政府は、すべての核保有国に同様の宣言を行うことを提案する。

5) すべての核保有国の同意が得られれば、たちに核軍縮に向けた協議を開始する。

6) 世界各国の支持と協力を得ながら、世界の非核化(核廃絶)を実現する。

朝鮮戦争以来、世界最強の核大国アメリカにより長く核戦争の脅威にさらされてきた朝鮮政府であるからこそ、世界の非核化に向けたリーダーシップの発揮を期待したい。(金五)

<備忘録>

朝鮮の最高人民会議は、2022年9月8日、核関連法を制定した。法令採択の目的は「核兵器保有国間の核兵器政策に対する誤判防止と核戦争防止」にあるとされている。

法令では具体的な核兵器の使用条件として、「朝鮮民主主義人民共和国に対する核兵器あるいはその他の大量殺戮兵器による攻撃が敢行されるか、差し迫っていると判断される場合」など5つの場合を想定している。米国による危険千万な軍事演習や挑発行為をけん制するのが目的とは思われるが「(核兵器による攻撃が)差し迫っていると判断される場合」というあいまいな規定は核先制攻撃を誘発しかねない危険性をはらんでいる。また「核兵器保有国と野合して朝鮮に対する侵略や攻撃行為に加担する場合」は非保有国に対しても核兵器の使用が可能だとしている。日本と韓国を念頭に米国の戦争策動に加担しないようけん制するのが目的とは思われるが、逆に日本と韓国を米国の核の傘の下に縛りつけることにもなりかねない。

改めて、朝鮮政府には「世界の非核化」に向けたリーダーシップの発揮を求めたいと思う。

(金五)



## 【コラム】

## 十月初冬の煖炉会

早朝、目覚めればストーブに火を入れたくなる冷え込み。暦は早くも霜の11月へと変わってしまった。そろそろコタツの準備や忘年会について考えるべき時が来た。

しかし、かつての韓国の人々はこの季節、むしろ焼肉の宴会を楽しみにしていたようだ。『東国歳時記』の初冬、十月雑事条を見れば、朝鮮王朝時代のソウルの人々は、煖炉会(ハノフエ、だんろかい)と称して煖炉を囲み酒食を楽しむ習慣があった。

「都の風習では、炭を熾して炉中に煎鉄を置いて牛肉を炙り、油・醬・鶏卵・葱・にんにく・唐辛子で調え、炉を囲んでこれを食べる。煖炉会という」

当時の人々は初冬になると焼肉を炙る煖炉を囲んで宴会を開いていたとある。この他にも神仙炉や卍氏饅頭(水餃子のスープ)、軟泡(豆腐のスープ)など様々なこの季節の料理が紹介されている。

こういった煖炉を用いた宴会形式は民間のみならず、宮中でも時折見られた。18世紀後半の朝鮮国王である正祖が、冬至に合わせて清の朝廷へと向かう使臣を見送るにあたり宮中で宴会を催した記録が残っている。

「この日、微かに雪が降っていたのが初めて晴れて、空は晴朗となった。二人の使臣を前に進ませ、その後ろに諸臣を坐らせ、内殿の厨房に煖炉を運びせ、壯營(近衛兵營)に楽器を演奏させ、料理をすすめて酒杯を数巡交わした」(『日省録』正祖十六年十月二十日)

正祖は宴会を開くにあたり、内殿の厨房に煖炉とそれに合った酒食を用意させていた。冬の北京に向かう使臣には良い饞になったと思われる。

そもそも煖炉会は北宋の歳時記にも記載されていた風習で、そこから高麗へと伝わったのかもしれない。高麗時代の宰相である李奎報の詩に初冬の宴について描写した一文がある。

「十月の天気は春のような酔いを為す。囲炉裏に身を寄せ、木片に火を点け、ラクダ絨毯に座っ

て無駄話を交わす」(『東国李相国集』古律詩「通師の寓する所の崇教寺方丈で飲む」)

寒さの近づく初冬の夕暮れに煖炉を囲みたくなるのは、自然な感情と言えよう。そこで酒を飲みながら語らうのは、実に楽しい宴会だったはずだ。

もっとも高麗は仏教を尊んだ国であり、この時、いかに宰相とはいえ知人との宴会で牛肉を食べたとは考えがたい。この詩でも牛肉についてはいっさい触れていない。宋の使臣が記した『高麗図経』では「高麗の政は甚だ仁であり、仏教を好み殺生を戒める。国王や大臣でもなければ羊や豚を食べず、また屠殺を善しとしない」とある。全く食べなかったとは言わないが、極めて稀ではあったと思う。

では、いつ頃から牛肉を炙る煖炉会を開くようになったのか。これについては諸説あるようだ。朝鮮王朝時代になると仏教の影響はいささか薄れたが、農耕社会において農牛は貴重な労働力であり、滅多なことで屠殺することは許されず、朝廷から牛禁令と呼ばれる牛屠殺を禁じる命令が發布されていた。

しかし、社会の安定とともに屠殺や肉の販売を特別に許された懸房(成均館の奴婢が文廟の維持のために運営する店舗)が現れ、あわせて牛禁令の緩和も常例化されるようになる。歳肉(正月に食べる牛肉)など名節の需要に応えたもので、『東国歳時記』除夕(大晦日)条にはこうある。

「大晦日の1~2日前から牛禁が弛む。諸法司は正朝(元旦に行われる宮中賀礼)まで取り締まりを停止する。都の民が歳肉を一度満足するまで食べるためのものであるが、時折行われぬこともある」

とはいえ、牛肉が日頃食べられないものであったことは確かなのだろう。実際、当時の風俗画に描かれた煖炉会を見ても、炉を囲んで肉を食べているのは、笠や冠をしっかりと被った身なりの良い両班ばかりだ。一般民衆にとっては、手が届き難いものだったに違いない。(詠)



▲当時の風俗画に描かれた煖炉会

## 【書籍紹介】

## 「僕の狂ったフェミ彼女」

著者:ミン・ジヒョン

出版社:イースト・プレス・1600円+税

韓国の作家、ミン・ジヒョン作のこの小説。日本語訳され(題名もほぼ忠実に日本語訳)、2022年3月に発売されたのを最近読んだ。

題名の如く、ともに30歳独身の主人公「僕」とフェミニズムを訴える「彼女」との関係が中心になって話は展開する。

好き合っていることを各々自認する一方、「僕」は「彼女」を幸福にしてやりたい、そしてその方途は結婚しかないと信じて疑わない。ゆえに「彼女」をもっと深く理解したい、世話を焼きたい、相談に乗りたいと一生懸命だが、そうした思いから発した言動は、ことごとく突き返されるか、はなはだしくは論破される。

「僕」の善意は「彼女」に通用しないまま、ただ『好き』という感情だけが浮遊する関係性が続く。

作中、とんでもないセクハラおやじ、冷淡で高圧的な「彼女」の上司、けんかっ早い「僕」の友人なども登場するが、概ね登場人物は善意と気遣

いのある面々である。だが、「僕」を含めた人々が善意ある関りをしていこうとするがゆえ、よけいに「僕」や「彼女」を取り囲む社会に、深い心のジェンダーギャップ—特に女性たちが、不当にその尊厳を侵害されているという事実への理解の差異—が横たわっていることが際立ってしまう。

この小説を読む途中から、今年3月の大統領選挙をめぐる様相を思い出した。当時、尹錫悦候補は女性家族省の廃止を公約にして、若年男性層の被害意識(「女性ばかりが優遇されている」といった類の)を煽り、票獲得を謀った。案の定というか、男性票獲得の一方で、女性層からは

強い反発を買った、その一連の話である。

2018年作のこの小説、韓国では大きな評判を呼び、近く映画化かドラマ化するという話もある。つまり、4年たっても、今の韓国を表すテーマを描いてるものと言えるだろう。(範)



## ◆◆行事予定◆◆

<p style="text-align: center;"><b>韓統連セミナー2022年</b> <b>シリーズ「ウリ現代史」第4回</b> <b>国家保安法をなくすために</b></p> <p>日時：11月20日(日)午後2時 開会 場所：KCC会館5階ホール (地下鉄今里駅2番出口から徒歩7分)</p> <p>報告：金昌範 韓統連大阪本部副代表委員 参加費：800円(青年学生500円) 主催：韓統連大阪本部 090-3822-5723(崔)</p>	<p style="text-align: center;"><b>韓統連大阪本部時局講演会</b> <b>新冷戦下の朝鮮半島 私たちの手で平和と統一を!</b></p> <p>日時：12月4日(日)午後2時 開会 場所：KCC会館5階ホール (地下鉄今里駅2番出口から徒歩7分)</p> <p>講演：新冷戦下における朝鮮半島情勢 講師：金昌五 韓統連大阪本部副代表委員 参加費：1000円(青年学生500円) ※終了後、交流会を開きます(会費2千円) 主催：韓統連大阪本部 090-3822-5723(崔)</p>
--	--

## 編集後記

8月に訪韓したときはコロナに感染して痛い目にあいましたが、今回の在日同胞招請行事での訪韓では主催団体から大歓迎を受け、これからの活動に向けたエネルギーをたくさんもらいました。

感謝!感謝です。

(ソン)